

守山企業景況調査報告書

(第27回)

平成28年4月～平成28年6月期 実績

平成28年7月～平成28年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 28 年 4 月～平成 28 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	18	90.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	66	93.0%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 28 年 4 月～平成 28 年 6 月、見通しを平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月とし、調査時点は平成 28 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 28 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 28 年 4 月～6 月期の調査結果では、売上高、業況、採算の主要 3 指標で前回調査より数値が低下した。

<業況>

業況 DI は▲21.9 で前回調査の▲11.9 から 10 ポイント低下した。業種別では、小売業▲17.6（前回調査比▲3.3）、製造業▲25.0（前回調査比+5.8）、建設業▲18.2（前回調査比▲34.9）、サービス業▲27.8（前回調査比▲14.5）、卸売業▲16.7（前回調査比+3.3）と製造業、卸売業が上昇した。

7 月～9 月期見通しは全体で▲23.4 であり、見通しは明るくない。

<売上高>

売上高 DI は▲18.5 で前回調査より 12 ポイント低下した。業種別では、小売業±0.0（前回調査比+6.7）、製造業 7.7（前回調査比+15.4）、建設業▲20.0（前回調査比▲11.7）、サービス業▲50.0（前回調査比▲38.2）、卸売業▲33.3（前回調査比▲53.3）であり、小売業、製造業の上昇とそれ以外の業種の低下という構図になった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲26.2 となっており、減少の見込みである。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲24.6 で前回調査より 9.3 ポイント低下した。業種別では、小売業▲27.8（前回調査比▲14.5）、製造業▲8.3（前回調査比+22.5）、建設業▲18.2（前回調査比▲18.2）、サービス業▲33.3（前回調査比▲26.6）、卸売業▲33.3（前回調査比+6.7）で製造業と卸売業が上昇している。

7 月～9 月期見通しは全体で▲26.2 であり、今回調査実績から低下している。

<資金繰り>

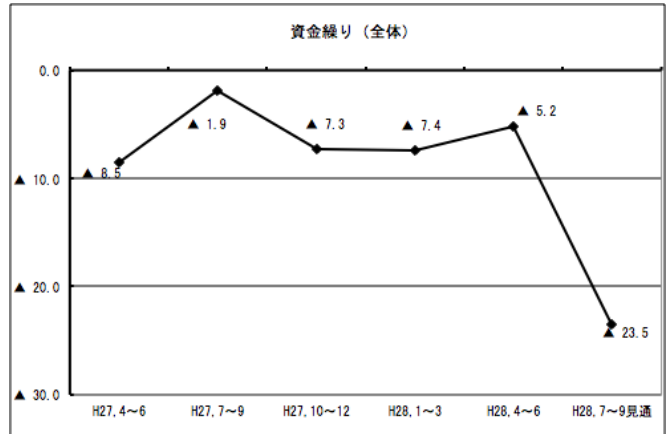
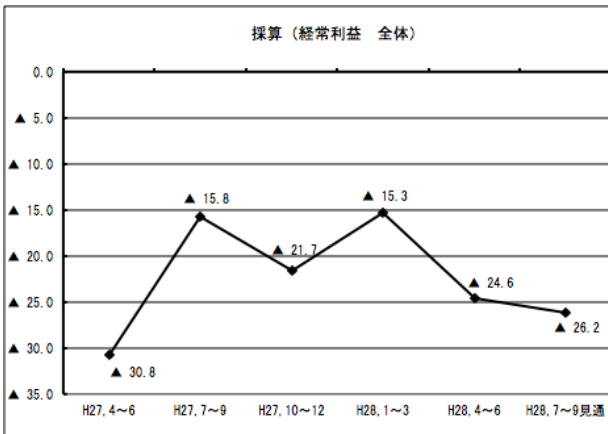
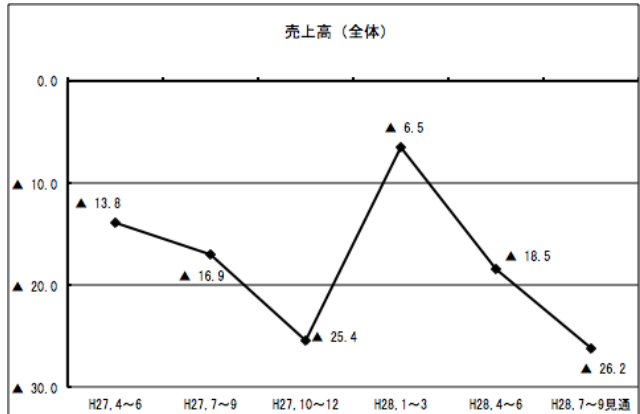
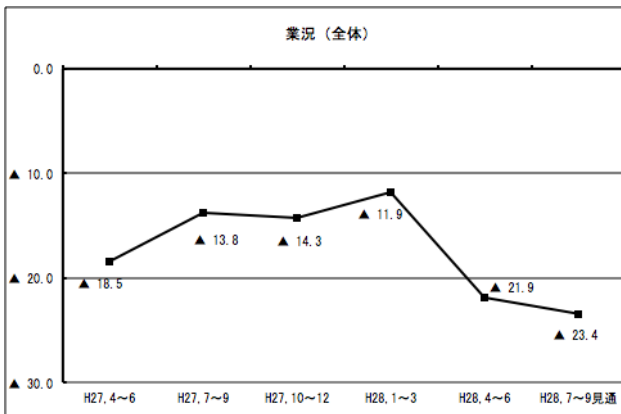
資金繰り DI は▲5.2 で前回調査より 2.2 ポイント上昇した。業種別では小売業▲6.3（前回調査比+7.0）、製造業±0.0（前回調査比+11.1）、建設業±0.0（前回調査比+8.3）、サービス業▲13.3（前回調査比▲13.3）、卸売業±0.0（前回調査比±0.0）であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲23.5 であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

円高で価格が低下し売り上げ、利益金額の低下をまねいている。

仕事量が少ない。近畿地区は特に悪いと噂されている。
 若い世代の老後不安（年金など）を解消し安心して消費にお金が遣えるような経済改革が必要。



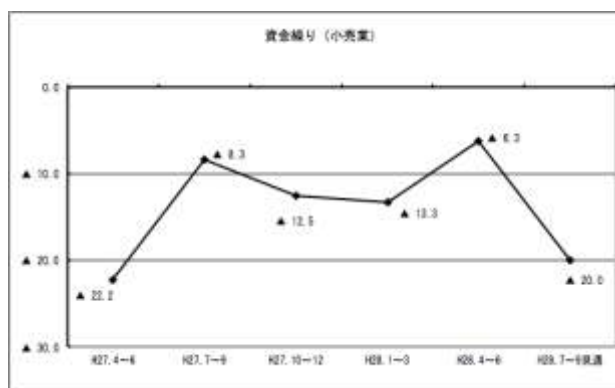
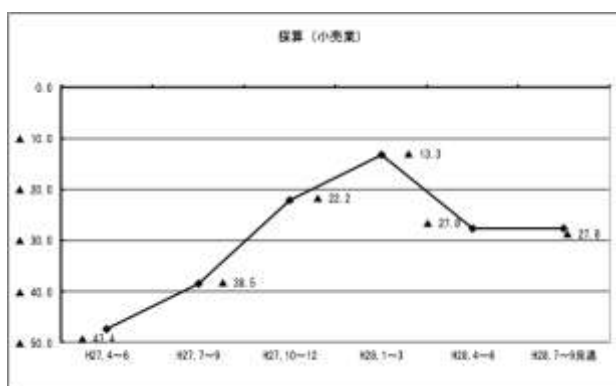
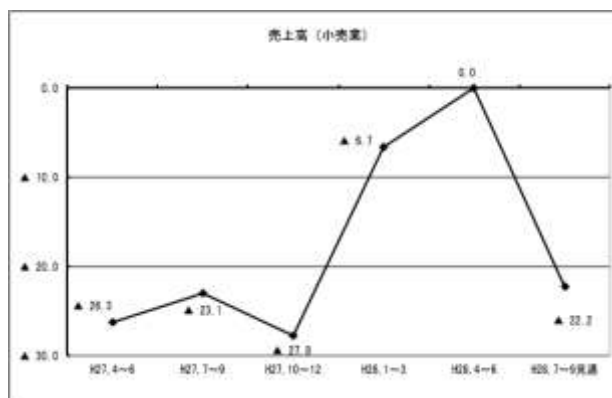
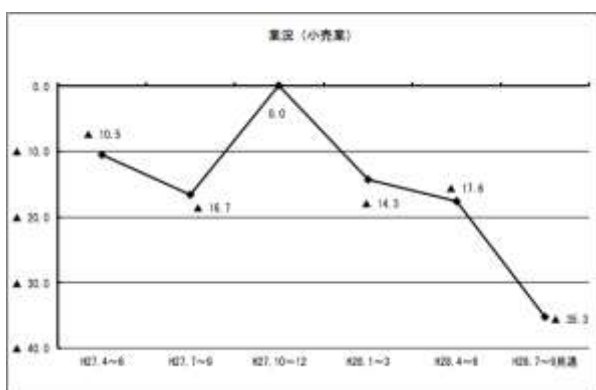
小売業

小売業の業況DIは▲17.6で前回調査より3.3ポイント低下した。2四半期連続の低下である。平成27年10月～12月期まで上昇基調にあったが、その後下降局面に入っているようである。ただ、前回調査較べて3.3ポイントの低下に留まっているので、一気に業況が悪くなっているようには見えない。一方で、7月～9月期見通しが▲35.3と急に下落しており一気の下落も懸念される。

売上高DIは±0.0で前回調査より6.7ポイント上昇した。2四半期連続の上昇で消費動向は上向いているようである。特に売上が上昇したとする回答が38.9%あり1/3以上の回答を得ていることが目を引く。7月～9月期見通しは▲22.2でこの先に対しては慎重な見方がされている。

採算DIは▲27.8で前回調査より14.5ポイント低下した。前回調査まで4四半期連続で上昇していたが、今回調査で下落してしまった。売上の増加が採算に結びついていないようである。7月～9月期見通しは▲27.8で今回調査実績と同じであった。

資金繰りDIは▲6.3で前回調査より7.0ポイント上昇した。3四半期振りの上昇である。しかし、7月～9月期見通しは▲20.0と資金繰りが急に苦しくなる見通しであり、予断を許さない。



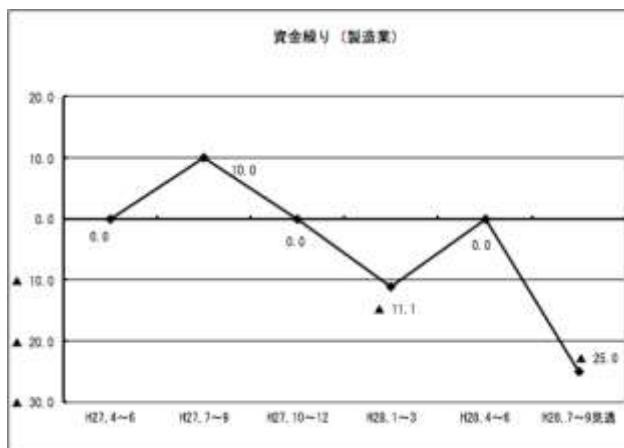
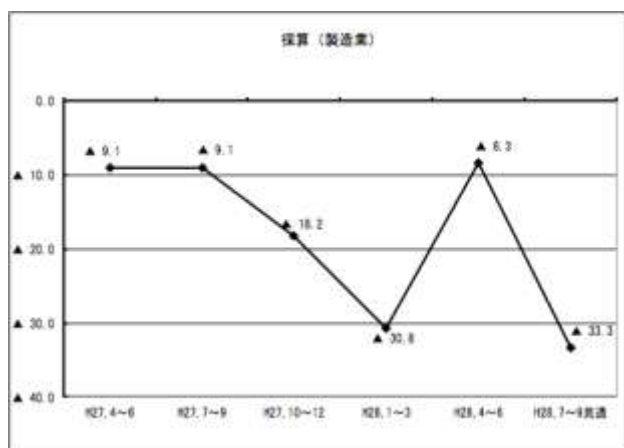
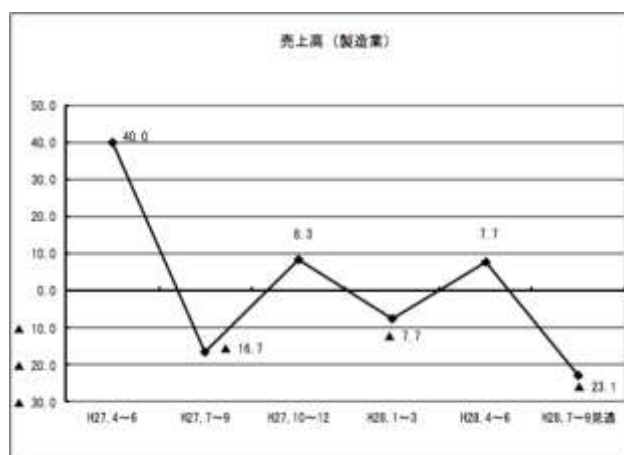
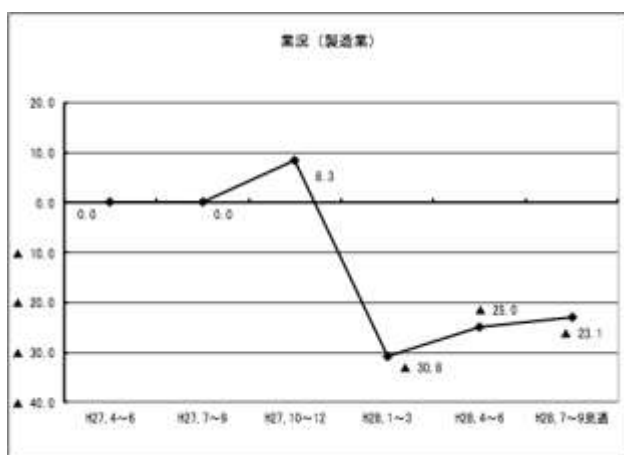
製造業

製造業の業況DIは▲25.0と前回調査に比べて5.8ポイント上昇した。前回調査で大きく数値を下げた業況DIであるが今回の調査でも小幅な上昇に留まった。製造業の業況は平成28年に入って芳しくないようである。7月～9月期見通しでも▲23.1と小幅な上昇であり回復の足取りは重い。

売上高DIは7.7で前回調査より15.4ポイント上昇した。売上高は上下を繰り返しているようで安定的に売上高の上昇が見込める状態ではないようである。7月～9月期見通しも▲23.1と大きく下げており、不安定である。

採算DIは▲8.3で前回調査より22.5ポイント上昇した。前回調査まで2四半期続いた採算の低下であるが今回調査ではDIが上昇し、採算が好転したようである。しかし、7月～9月期見通しは▲33.3と大きく下げており採算の悪化が警戒されている。

資金繰りDIは±0.0で前回調査より11.1ポイント上昇した。売上高、採算の上昇が資金繰りのDIに関連付けられているかのようなようである。7月～9月期見通しが▲25.0となっているので他の指標と同様に警戒感が強くなっている。



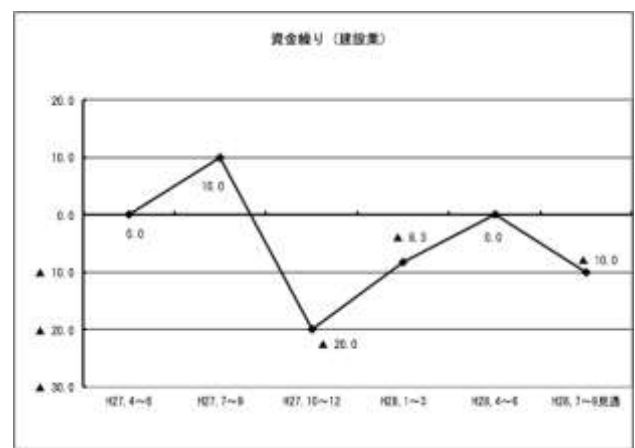
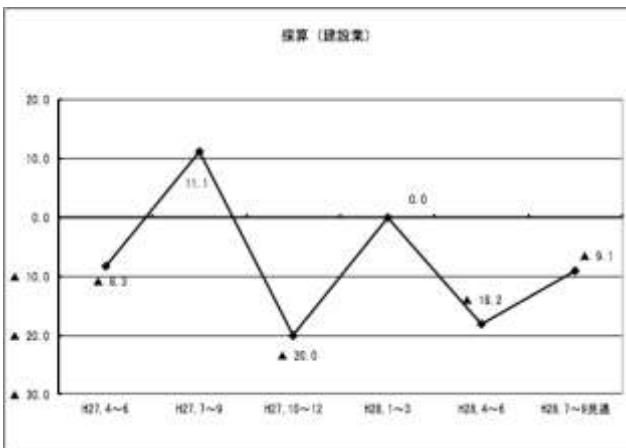
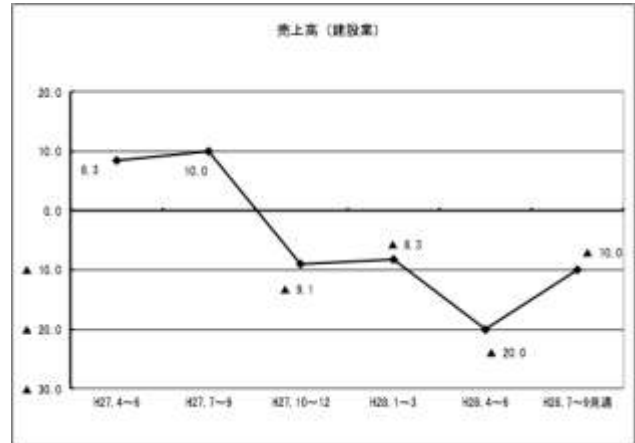
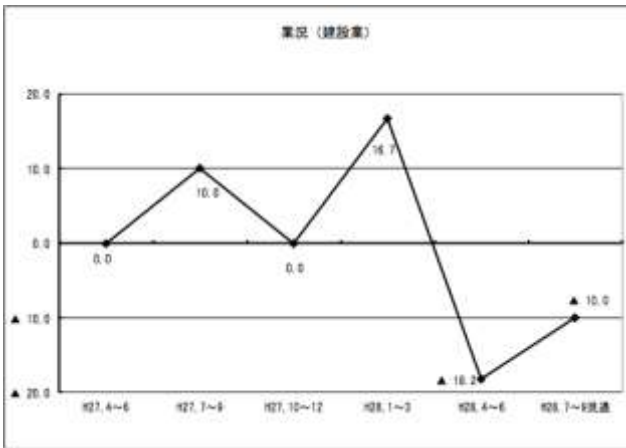
建設業

建設業の業況DIは▲18.2であり前回調査より34.9ポイント低下した。上昇と下降を繰り返す傾向にある建設業の業況であるが、今回の低下は過去に例を見ないほどの大きなものである。業況が良いと回答した事業所が0%であったのも見逃すことができない。7月～9月期見通しは▲10.0で少し改善すると予想されている。

売上高DIは▲20.0で前回調査より11.7ポイント低下した。前回調査時点での4月～6月期見通しが16.7であったが事業者の見通しとは逆の動きになっている。7月～9月期見通しは▲10.0で少し改善すると見込まれている。

採算DIは▲18.2で前回調査より18.2ポイント低下した。業況、売上高が低下しているのでそれにつれて採算も悪化したように見える。7月～9月期見通しは▲9.1でわずかに改善すると見込まれている。

資金繰りDIは±0.0で前回調査より8.3ポイント上昇した。2四半期連続で改善して、±0.0まで数値が戻った。7月～9月期見通しは▲10.0と低下しており、資金繰りの悪化が懸念される。



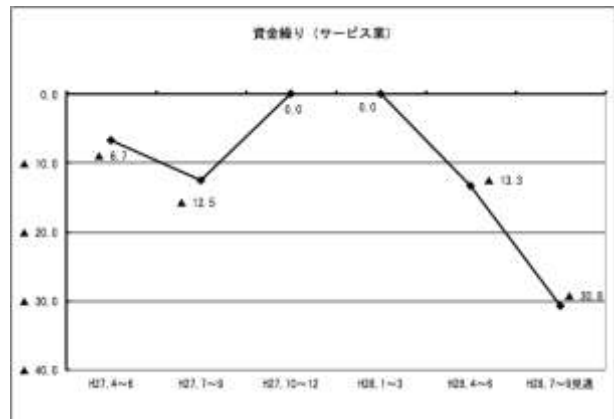
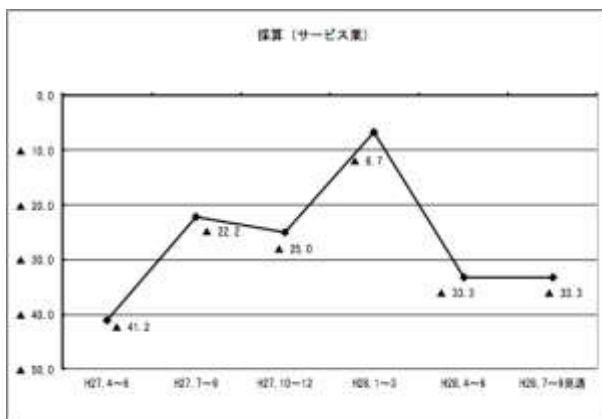
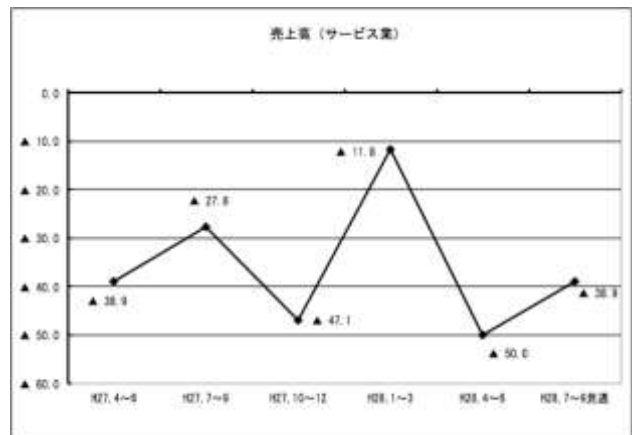
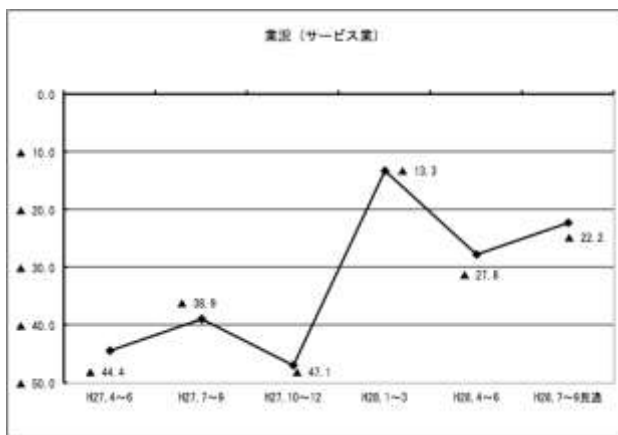
サービス業

サービス業の業況DIは▲27.8で前回調査より14.5ポイント低下した。前回調査で大きくプラス方向に動いたDIが今回調査では低下してしまった。とはいえ、過去のように▲40付近まで下がってはならず、一気の悪化になる前で踏みとどまっている。7月～9月期見通しも▲22.2と今回調査実績より上向いている。

売上高DIは▲50.0で前回調査より38.2ポイント低下した。売上高は一気の悪化を見せている。過去1年でも最低の数値である。売上高が上昇したと回答した事業所が5.6%しかなかったことがこれを物語っている。7月～9月期見通しは▲38.9と今回調査実績よりは少し上向いている。

採算DIは▲33.3で前回調査より26.6ポイント低下した。売上高の大幅な低下が採算に影響を与えていると考えられる。大きな売上高の回復が見込めていないこともあって、7月～9月期見通しも▲33.3と低い数値のままである。

資金繰りDIは▲13.3で前回調査より13.3ポイント低下した。売上高、採算が低下して資金繰りにも影響が出ているようである。7月～9月期見通しは▲30.8と一段の資金繰り悪化が懸念されている。



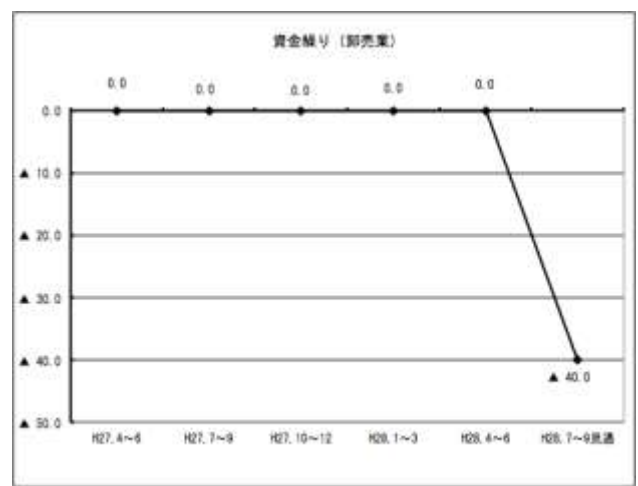
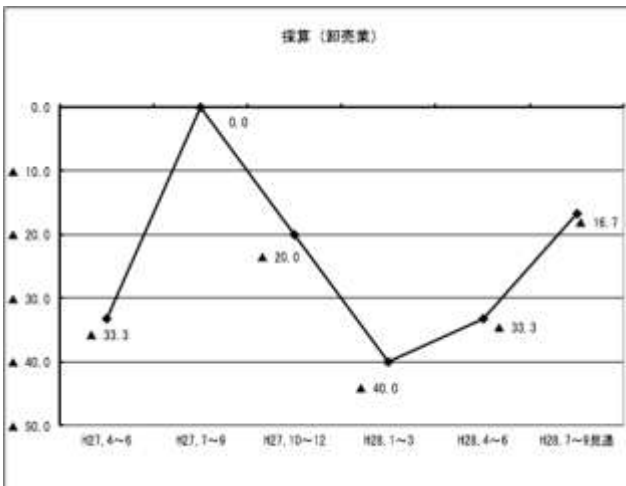
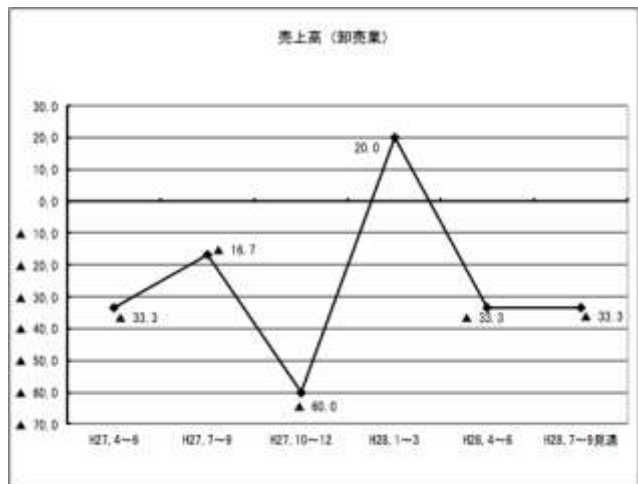
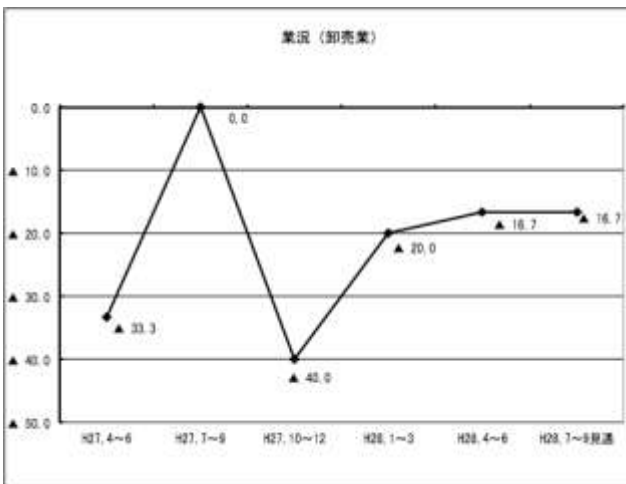
卸売業

卸売業の業況DIは▲16.7となり前回調査に比べて3.3ポイントの上昇である。変動の大きな卸売業のDIであるが今回はほとんど前回調査と変化がなかった。つまり、前回調査時点と今回調査時点では業況に大きな変化がなかったと考えられる。7月～9月期見通しも▲16.7で今回調査実績と同じであり、業況は悪いまま変化がなさそうである。

売上高DIは▲33.3で前回調査より53.3ポイント低下した。前回調査でプラス20.0まで数値を上げたが、今回はマイナスである。7月～9月期見通しも▲33.3で売上高も悪い流れの中に入ってきそうな見通しである。

採算DIは▲33.3で前回調査に比べて6.7ポイント上昇した。7月～9月期見通しは▲16.7なので、採算は回復しそうな見通しとなっている。

DI資金繰りDIは±0.0で前回調査と同じである。ここ1年は±0.0が続いており資金繰りは安定しているようであったが、7月～9月期見通しは▲40.0となっており安定が崩れることも考えられる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期 動向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲ 21.9	▲ 23.4	▲ 18.5	▲ 26.2	▲ 24.6	▲ 26.2
小売業	▲ 17.6	▲ 35.3	0.0	▲ 22.2	▲ 27.8	▲ 27.8
製造業	▲ 25.0	▲ 23.1	7.7	▲ 23.1	▲ 8.3	▲ 33.3
建設業	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 18.2	▲ 9.1
サービス業	▲ 27.8	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 33.3
卸売業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 16.7

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	3.1	3.1	▲ 19.0	▲ 33.7	1.6	▲ 5.1
小売業	0.0	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 29.4	▲ 6.7	▲ 6.7
製造業	15.4	30.8	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	▲ 36.4	▲ 36.4	20.0	20.0
サービス業	0.0	▲ 5.6	▲ 23.5	▲ 38.9	▲ 5.9	▲ 23.5
卸売業	0.0	16.7	▲ 16.7	0.0	16.7	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し	4～6 月期動 向	7～9 月期 見通し
全 体	▲ 5.2	▲ 23.5	4.1	4.3	2.1	4.3
小売業	▲ 6.3	▲ 20.0	8.3	8.3	8.3	8.3
製造業	0.0	▲ 25.0	11.1	11.1	11.1	11.1
建設業	0.0	▲ 10.0	10.0	20.0	0.0	10.0
サービス業	▲ 13.3	▲ 30.8	▲ 8.3	▲ 9.1	▲ 8.3	0.0
卸売業	0.0	▲ 40.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0

過去からの動向

